令和7年度　教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
北海道	岩見沢市立美園小学校	子供と教職員の「自律・余白」からウェルビーイングを実現 ～子どもと教職員の Weii Being を実現する学校づくり～	【成果と課題】 　昨年度からスタートした小中接続させた目的達成型の組織は、子供が主人公となる取組を加速させ、数々の充実した実践を展開している。その成果は、子供の自己有用感と教職員のチーム効力感を、これまで以上に引き上げるという結果を生み出した。 　課題として挙げられていた「持続可能にする」ことや、「当事者意識の向上」については、子供と教職員の「自律・余白」づくりと「任せるマネジメント」により、ねらいとしていたレベルまで近づけることができたと感じている。 　このウェルビーイングを更に持続可能にするには、やはり複雑・困難化する様々な課題に対応できる教職員の専門性や新たなものに挑もうとする、「自律した同僚性の構築」が必要不可欠だと考えている。 　究極は、管理しない学校を目指すことであり、小中接続による「自走できる同僚性の高い組織」による「次の一手」が望まれるところである。
北海道	北海道有朋高等学校	遠隔授業による連携授業 ～「社会とつながる学び」を目指して・北海道寿都高等学校での実践報告～	1　はじめに 今年度、海外とのオンライン連携授業を継続的に実施し、明確な目的を持ちながら、英語の使用 をする機会を増やすことができた。その結果、生徒の内容推測力・要点把握力等が大きく向上し、生徒の多くが英検2級合格レベルに到達した。 2　英語運用能力の比較と結果 2015年第1回・2回の英検過去問題演習（リーディング・リスニング）を、今年度授業内で5月と2月に実施。両スキルにおいて大きな伸びを見せた。特にリスニングにおいては得点率7割を越えた。 3　まとめ 総授業128回中20回（約16％）で連携授業を実施し、読解・パフォーマンステストを通しても 顕著な英語運用能力の向上を確認できた。今後も各教科書単元の目標を達成するために連携授業を1つの柱にしながら授業研究に努めたい。
北海道	滝川市立滝川第二小学校	「自ら学びに向かう、自律した子供の育成」 ～個別最適な学びと協働的な学びを実現する自由進度学習を通して～	【今年度の成果】 ・児童の学びに向かう姿勢が向上し、家庭学習の時間が全校的に増加する傾向にある。 ・公開研究会を開催し、本校の取組について広く知らせることができた。また、参観者同士の対話を通じて、子どもを中心とした学びの在り方について、考えるきっかけづくりができた。 ・他校で行われている「単元内自由進度学習」について視察をし、本校が進める学びの方向性について、あらためて認識を深めることができた。 【今後の課題】 ・ICT機器をさらに有効に活用することで、教師の授業準備や児童の学習がもっとスムーズになるのではないか。 ・協働的な学びの基礎となる心理的安全性ある学級づくりや人間関係作りをさらに深める必要がある。
山形	飯豊町立第二小学校	自ら考え、共に学び合う子供の育成 ～学習者が主体となる授業を目指して～	【成果】 　・児童の実態に合わせて単元構成や導入の工夫をしたことで、児童が意欲をもって学びに向かうことができた。 　・相手意識をもって話そうとしたり、相手の理解度を確かめながら説明したり、言葉を選んだりする姿が見られるようになった。 【課題】 　・自分の学びの変容を自覚できるように、ふり返りや学びの履歴をノート等に残すことを検討する必要がある。 　・自由に話し合う場面と、押さえたいことを全体で共有する場面を教師側が意識する必要がある。 　また、宮城教育大学教授　市川啓　氏より、提案授業及び講話をいただいた。実践に 基づいた話だったため、職員にとって学びの多いものとなった。
福島	郡山市立金透小学校	学びを創る ～「個で追及する力」を育む授業の創造～	1主題設定の理由 現代社会では、身の回りの様々な事象に興味関心をもち、情報の信頼性や妥当性を自ら判断し正確に読み解き、選択・決定して課題を解決していく力が求められていることから研究主題を設定した。 2研究内容・方法 「子どもの学びがつながる単元構想の工夫」「多様な学びを支える教師のかかわり」 「子どもが必要感をもつ振り返りの充実」の3つの視点から、授業構想、実践、検証を繰り返して子どもの姿を質的に分析した。 3成果 成果として追究する中で他教科や生活とのつながり、一人一人の学びのつながりなど各教科・学年において子どもの学びにつながっていった。また、各教科における見方・考え方を豊かにすることができた。

令和7年度　教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
群馬	群馬県立しろがね特別支援学校	ポジティブな感情もネガティブな感情も受入れられる心の育成を目指して ～知的障害、ASDと愛着障害を併せ持つ生徒への支援と実践～	本研究は、軽度知的障害とASDを併せ持ち、愛着障害の疑いのある生徒Aを「ASDと愛着障害併存タイプ」として捉え、愛着修復プログラムをもとに支援を行った実践記録である。担任をキーパーソンに設定し、安心基地・安全基地・探索基地の形成を段階的に進めた結果、ポジティブ・ネガティブ双方の感情を受け入れ、言葉で表現して伝えられるようになり、問題行動が減少した。さらに、過去の行動を認めて謝罪するなど、自己の感情と行動を振り返る力が育った。一方で、キーパーソンへの執着が恋愛感情や嫉妬へと変化するなど、新たな課題が生じた。今後はその感情を適切に受け入れ、行動をコントロールできるようになるための支援が求められる。
群馬	群馬県立前橋高等特別支援学校	人にも環境にも優しい”もったいない封筒”を作る作業学習 ～支援具の改良と、SDGs体験を通したエージェンシーを育む実践～	研究主題の主要な研究成果 ・本研究で述べた方法を基に作成した封筒は、本校文化祭において生徒自身の手で販売された。 ・生徒は、来場した保護者、兄弟、他校在籍の友人、卒業生等に対し、製作工程や工夫点、苦労した点を言葉で説明しながら作品を手渡した。 ・この経験は、活動内容を振り返るとともに、他者から承認を得る機会となり、自己効力感の向上につながった。 ・さらに、近隣の NPO 法人が運営するカフェや、群馬県内で開催されたインクルーシブフェスタへ の出店を通して、 社会との接点が生まれた。 ・加 えて、生徒が自らデザインしたイラストを封筒に貼付する新たな取組を導入した。 ・その結果、自身のデザインが商品として採用・販売される経験が、生徒の創作意欲の向上につながる様子が確認された。
埼玉	さいたま市立美園小学校	教職員の主体的な研修を促す校長の役割 ～人事評価制度と受講奨励システム等を生かして～	研究の成果・今後の課題 ・1月に教職員の達成状況面談を実施し、「研修履歴表」を基に自らを振り返ることを促した。 ・教職員に対して「何が変わったか」「伸ばすべき資質・能力は何か」「今後どんな教員を目指すか」など、対話をしながらともに考え教職員の自覚を高めた。 ・提出した全員の「研修履歴表」に目を通し、本人の強みや力を入れて取り組んだことなどに来年度への期待などを記して返却し、研修意欲を高めた。 ・Plantの受講履歴では記録されない日々の学びや校内研修など、教職員の研修の特殊性を踏まえた記録を積み重ねていきたい。 ・臨時的任用教職員についても「研修履歴表」の活用と対話を進めていきたい。 ・市外・県外の様々な研修の情報を提供し、教職員の強みを伸ばしたり、キャリア段階に即した資質・能力を高めたりしたい。
埼玉	所沢市立若松小学校	命を守る安全教育・防災教育の推進 ～自ら判断し行動できる子どもを育てる安全教育・防災教育の推進～	【研究の成果】 ・「生活安全に関する取組」「交通安全に関する取組」「災害安全に関する取組」の三観点で整理して計画を立てたことで、多様な災害場面を想定した避難訓練等を行うことができた。 ・同様の災害に関する訓練でも実施回や年度ごとに想定を変化させることや、訓練等のあとに「振り返りカード」を使用し児童に自分事として考えさせることをとおして、臨機応変に対応する能力や、自ら判断し行動する力を養うことができた。 【今後の課題】 ・温暖化に伴う豪雨災害時の避難等についても指導していく必要がある。 ・形骸化することのないよう、避難方法等について情報をアップデートしながら、指導法の工夫改善を進めていく必要がある。
埼玉	所沢市立安松小学校	持続可能な社会を創造する力を育む教育活動の推進 ～持続可能な社会の創造に貢献する資質・能力・態度を育む教育活動の推進～	校長は、児童が持続可能な社会の創り手となることを見据えながら学習活動を工夫しなければならない。児童が自己の役割を認識し、他者と協力しながら、持続可能な社会の実現に貢献しようとする意欲と主体的な態度を身に付けるための自校の教育実践を分析した結果、学校は、仲間づくりを進め、自治力を伸ばし、愛校心を育て、地域とつながることで、児童の社会形成能力の基礎を育成できることが分かった。また、校長の役割として、継承し発展させる（伝統を受け継ぎ、未来への展望を持つ児童に育てる）ことや、児童や教員等の声を聞いて学校経営に生かすことが学習活動の工夫につながり、校長の指導性は、企画や立案において、また、地域と関わるときに強く発揮されることも明らかになった。

令和7年度　教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
埼玉	ふじみ野市立福岡小学校	学校経営ビジョンの実現に向けた活力ある組織づくり	1研究の成果 (1)めざす学校像、めざす子供像、めざす教師像を簡潔に分かりやすく示し、職員会議など校長が職員に話す機会があるごとに周知した結果教職員の方向性の一致を図ることができた。 (2)教職員の希望を最優先する校務分掌組織に努めた結果、職員がやる気をもって新年度をスタートさせることがてきた。 (3)日課表を分かりやすく示したことと放課後にゆとりをもてる日課表にしたことで教職員の放課後の会話も増えて雰囲気のよい職場環境にすることができた。 (4)打ち合わせを充実したことで何でも言い合える、課題の解決につながる話し合いを進めることができた。その結果、大きなトラブルなく学校経営を進めることができた。 (5)本物から学ぶ体験活動を充実させたことにより子供たちの学びを充実させることができた。将来の夢や希望、憧れを抱くことにつなげることができた。 2課題 (1)学び合いを充実させる学習の推進において子供たちの問題意識をさらに高められるよう教材研究をしていく必要を感じた。また、外国から転人してきた子供たちには言葉が通じない問題が起こってしまった。その子たちにも楽しい授業をいかに展開できるかが課題てある。 (2)校長室を開放した結果、多くの子供が遊びに来てくれたが多すぎて諦めて教室に帰る子もいた。また、限られた時間にすべての子供と会話できるまてに至らなかったこともあり開放の仕方をさらに工夫していきたい。
埼玉	熊谷市立熊谷西小学校	児童が伸びを実感できる開発的生徒指導 ～学級活動と学級経営の充実を目指して～	①研究・実践活動の実際について ・指導主事を招いた授業研究会を年8回実施し、研究の成果を市で発表した。 ・研究だよりを発行したり、地元ケーブルテレビ局の取材を受けたりしながら、保護者や地域に発信した。 ②取組の成果について ・アンケートの結果から、教師の信頼関係と児童同士の信頼関係に大きな伸びが見られた。 ・教職員アンケートを実施した結果、研究の満足度が5点満点中4．17ポイントだった。 ③今後の見通しについて ・今年度育んだ児童の親和性を発展させるため、児童同士で折り合いをつけることができるような自己を調整する力を高める研究を次年度行う。
埼玉	行田市立南河原小学校	児童ひとりひとりのよさを伸ばし、明るく元気に、地域と共に歩む学校 ～地域の力を生かして～	主な研究成果 地域の力を学校経営に生かすことで、つぎの2つの大きな成果が得られた。 〇全ての児童が「学校は楽しい」と感じている。地域の文化や産業などに対して誇りや愛着をもち、自分事として捉えられるようになった。 〇地域全体の学校教育への関心が高まり、一体となって子供たちを育てていこうとする意識が醸成された。 今後取り組むべき課題は、つぎの2つである。 〇地域の教育資源を積極的に見つけ、学校教育に活用する力量を備えた教職員を育成する。 〇義務教育学校として新たな出発をするまで、地域ぐるみの教育体制を維持、発展させ、しっかりとした地盤に立って、生涯学び続けることのできる児童を育てる。
埼玉	三郷市立丹後小学校	主体的に学び、自分の考えを表現できる児童の育成 ～対話を通して、言語能力を定着させる指導を目指して～	【成果】 〇学力テストの記述式問題の得点が伸びた。毎月の日記や主に国語の学習を通じて文章を書く時間を確保していることが効果的であった。 〇「読むこと」の力を測る問題で、全学調、総合学力調査ともに全国平均を大きく上回る結果を得ることができた。読書活動を推進する取組と授業における指導力向上（話合い活動の充実など）が結果につながった。 〇積極的なICTの活用により、児童自らが考え、課題解決に向かって取り組めるようになった。 〇丹後小独自の、学年による「話合いマスター」の活用により協働的な学びが深まった。 【課題】 ●知識・技能（特に漢字に関する問題）の点数が伸び悩んでいるため、基礎的な漢字が書けるようにする学習の手立てが必要である。
埼玉	白岡市立南小学校	教師の学習機会の保障を目指した校内研修モデルの開発 ～協働的省察過程におけるダブル・ループ学習に着目して～	「主要な研究結果」 本研究では、教師の主体性を引き出す新たな試みとして、自律型チームによる課題探求型「チーム研修」モデルを導入した。本モデルの実践にあたり、助成により導入したAIボイスレコーダー「PLAUD」を活用。日常的な研修内の対話を録音・自動文字起こしすることで、発話内容の緻密な可視化と構造的な分析を試みた。この客観的 なリフレクションのプロセスにより、従来の主観的な振り返りを超えた深い対話が生まれ、研修内容のさらなる充実が図られた。本実践の成果は高く評価され、次年度より本市全域の小学校において、本校の研修モデルが市の標準的な実践として導入されることが決定した。本モデルは、エビデンスに基づく同僚性の構築に資する有効な手立てとなり得ることが示唆された。

令和7年度　教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
埼玉	越谷市立桜井南小学校	時代を担う子どもたちに思考力・判断力・表現力を育む授業の創造 ～社会とつながるかかわる生きる力を育む指導方法の研究～	【研究主題の主要な研究成果】 〇学力向上では、【『Blush Up!』 児童が「できてうれしい」を実感できる授業づくり】を合言葉に、無駄を省き、必ず課題設定からメタ認知を生む振り返りまでを毎時間実施することで、全国学調や県学調では、大きく学力を伸ばすことができた。 〇総合的な学習の時間は、まず、教員研修を実施した。次の学習指導要領の論点整理の資料等も活用して、社会に出て生きて働く学力の育成に向けての授業改善について協議した。「社会とつながる　社会と関わる人の育成」を合言葉に、2学期以降、外部ゲストを多く招聘する取組を行うことができ、手ごたえを感じている。次年度に向けて、年間指導計画の見直しを行っている。安全への取組の中で、児童や保護者からも本校の課題が見え、刺股の整備等につながってきた。
千葉	千葉県立東総工業高等学校	教育DXと教職員の働き方改革 ～これまでの勤務校と千葉県立東総工業高等学校の取り組み～	【研究の成果】 ・平成30年度からの令和7年度までの教頭・副校長・校長としての勤務した4つの高等学校での、教育DXと校務の情報化の推進による教職員の働き方改革についてまとめた。 ・特に、教頭（副校長）の働き方改革を意識した取り組みを実践し、可能な限り千葉県内の県立高等学校で情報共有が可能な形とした。校長会での情報提供や教頭・副校長会のTeamsでの情報提供などに取り組んだ。 ・特に東総工業高等学校では、これまでの経験等を踏まえ、校内の教職員の負担を軽減させるような仕組みの導入を意識し、全職員にとって利用しやすいシステムを構築するようにした。
千葉	東金市立東小学校	「三方良し」の学校経営をめざして ～合い言葉は「いいね！」～	【成果と課題】 本校の課題である学力向上及び不登校対策、いじめ防止等の解決のために、学校の居心地を良いものにすべく次のことに取り組み一定の成果をあげた。 ①　学校だより『東っ子』により、学校経営の方針や具体的な活動について保護者や地域の理解を深めた。 ②　校長通信により、学校教育目標具現化のための方策を教職員で共有、実践した。 ③　PTA活動の在り方を見直すことで、保護者の積極的な協力姿勢が見られるようになった。 上記の一連の活動を「いいね！」の合い言葉で紡ぐことで「三方良し」（子供良し、学校良し、保護者・地域良し）の学校づくりができつつある。 今後、これらの取り組みが本校の課題解決にどのように結びつくかを検証していく。
千葉	旭市立富浦小学校	伝え合う力を育成する表現力指導の在り方	＜研究の成果＞ ・相手意識や見通しをもたせることや吹き出しを利用して自分の思いを確認することにより、共感する言葉が自然に出るようになったり、話合いが盛んにおこなわれたりした。 ・相談しながら進める活動の必要性をもたせ、少人数での話合いを取り入れたことで、円滑な人間関係づくりが進むとともに、伝え合う力や表現しようとする意欲が育まれた。 ＜今後の課題＞ ・ノートへの表記や「書く」「話す」のそれぞれの表現について、発達段階に応じた言葉の理解、学級の実態や個に応じた指導の工夫により、適切な評価とともにより深めあえる授業を展開し、向上を目指したい。 ・目標に向けたスモールステップを設定し、自発的な取り組みにつながるようにしたい。
千葉	館山市立西岬小学校	将来を見つめ心豊かに進んで行動できる子どもの育成 ～地域の自然と人材を生かした「海洋教育」を通して～	地域の「海に親しむ」「海を知る」「海を利用する」「海を守る」をコンセプトに学年の実態に応じた海洋教育を実践し、学びを積み上げてきた。主に成果は以下の通りである。 （成果） ・1時間半のスノーケリングで、目視で15～20種類の生きものを見つけ、名前、性別、幼魚、成魚等の区別ができる力がついた。 ・生き物を見つけた場所から生態や餌、環境の違いに目を向け、疑問を抱いたことを主体的に深く追及するする力がつき、最終学年では、研究の成果をまとめ、発表することができた。 ・大学等研究機関との連携により、専門的な知識を習得したり、観察や研究の仕方を学んだりすることができた。 ・身近な海について、様々な視点から調べてきたことで、地域に誇りと愛着をもつようになった。また、自然環境の保持に目を向け、今後自分たちに何ができるのかを考える姿がみられた。 （課題） ・令和9年度より近隣校と統合となる。統合後の実践の進め方。

令和7年度　教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
千葉	柏市立富勢東小学校	令和の日本型学校教育の推進 ～少子高齢化に対応する魅力ある学校づくり～	【成果と課題】 　先進的な研究を行っている学校を多数視察し、学びを深めたことで、令和の日本的学校教育の個別最適な学びと協働的な学びや探究的な学び、子供主体の学びを進めていくことができた。また、「地域の担い手を育む」という研究テーマをもとに地域探求を深めることもできた。学習を通して、地域の方と一緒に「少子高齢化」という課題に向き合えたことも大きい。 今後も学校と地域のつながりを深め、学校を核とした地域創生に向け、小規模校のメリットを最大限生かし、魅力ある学校づくりを進めていきたい。
千葉	成田市立西中学校	新たな学びの場の創造を目指す取り組み ～ICT活用の日常化から教育DXの推進・生成AIの教育的利用までの取り組みは学校に何をもたらしたか～	西中学校の5年間にわたる研究成果は、ICT活用を通じた「挑戦の文化」の醸成と、それに基づく教育DXの構造改革、生成AIによる創造的な学びの実現である。第1・2ステージでは、生徒の心の可視化による絆の構築と、DX推進チームによる校務効率化を推進し、変化を恐れない柔軟な組織基盤を確立した。第3ステージでは、生成AIを「創造的パートナー」と定義し、生徒が実生活の課題解決や探究に主体的・創造的に取り組む力を育んだ。最大の成果は、「誰一人取り残さない」教育の実現に向けて、教員が刺激しあい、常に学び続ける風土が根付いたことである。
千葉	千葉市立稲丘小学校	自他の考えや思いを大切にし、主体的に伝え合う子供の育成 ～「話すこと」・「聞くこと」領域の指導を通して～	書くことに対する苦手意識をもつ児童が多いという本校の実態から、今年度より、国語料「書くこと」領域に焦点を当てた研究を行った。2・4・5・6年生で文章を書くことが「好き」「どちらかといえば好き」と回答した児童の割合は、後期の方が下がってしまった。また、文章を書くときに困ることについて、「書きたいことが思いつかない」と答えている児童が依然として多いという結果が出た。 今年度、視点Ｉとして「自らの考えをもたせるための指導の工夫」を掲げ、題材やテーマを工夫するなど、書くことに対する児童の意欲が高まるように実践を行ってきた。しかし、児童の「書くこと」に対する意欲を高めたり、困り感を解消したりすることにはつながらなかった。「書くこと」に対する消極的な気持ちには他の要因が関わっていると考えられる。次年度はその解明に努め、児童が「書きたい」と思えるような指導の工夫を行い、表現する楽しさを味あわせることができるようにしていきたい。
千葉	松戸市立八ヶ崎小学校	生き生きとした体育学習の展開を目指す体育科研究 ～体つくり運動系の研究実践を通して～	「主要な研究成果」 本校の授業研究の成果については以下の通りである。 ・学習財（教材）の工夫 運動の特性や児童同士の学び合いを大切にした教材は，児童にとって魅力的かつ実態に即したものだったのではないかと考える。 ・学習過程の工夫 「個別最適な学び」の「指導の個別化」と「学習の個性化」の考え方に基づいた授業づくりを行うことで，学習内容の定着を図ったり，学習を深め広げたりすることができたのではないかと考える。 ・学習カードの活用 学習内容に合わせて具体的な問いを立てたり，把握した児童の状況を基にコメントをしたり，よい記述を学級全体に広めたりすることで，児童・教師共に，有効に活用できたのではないかと考える。
東京	狛江市立狛江第一中学校	主体的な学習を通したESDの実践 ～「学習者が主体となる授業」の実践～	成果 ・課題を自分事として問題化し、課題解決に思考し、協力・協働しながら取り組む力が着実に身に付いた。 ・協働的な学習において自己有用感を得ることで自己肯定感を高めたことが、自信をもって学習に主体的に取り組める態度の醸成につながったと考えられる。 課題 ・ESDカレンダーの精度を高め、学校全体でねらいの共通意識をもって取り組んでいく必要もあると考える。 ・生徒に寄り添い、「分かる」「できる」を実感させ、学び への意欲を減退させない指導の工夫や、学習導入時に高めた学習意欲を学習過程の中で上昇サイクルを生み出しながら、高い意欲の中で学習課題解決に結び付ける必要があると考える。
東京	大田区立清水窪小学校	未来の科学を担う「科学大好きなこども」を育てる ～サイエンスコミュニケーション科を中心とした学習を通して～	【成果】 ・児童の思いや願いを大切にし、身近な自然事象を実証性・再現性・客観性をもって探究する場面を意図的に設定したことで、自ら問題を見いだし、予想や仮説に基づいて検証計画を立案しようとする意欲が高まった。 ・思考ツールを活用した対話や、より妥当な考えを導く話合いの充実により、考えを深め合う姿が見られた。 ・東京科学大学等と連携し、専門家を活用した学習を通して、科学の有用性や日常生活との関連への認識が深まった。 【課題】 ・日常生活や社会との関連を図る指導内容や指導方法について更に工夫していく。 ・育成する資質・能力と働かせる見方・考え方について更に明確にしていく。 ・専門家との対話の充実を図るため、地域学校協働本部との連携を更に推進していく。

令和7年度　教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
東京	大田区立東蒲小学校	未来を切り拓く力の育成 ～教科担任制を生かして～	・令和7年度から大田区で開始した新教科「おおたの未来づくり」の第5学年「Aものづくり」、第6学年「B地域の創生」において、単元開発を行った。 ・一単位時間における指導の手だてを「個別最適な学びと協働的な学び」、「ICT等の活用」、「振り返りの充実」の三つに絞り、年間を通して授業改善を続けたことで、研究授業のみにならず、連続性のある研究になった。 ・小規模校における教科担任制に第3～6学年で挑戦した。 ・研究の効果検証は、授業研究と7月、12月の児童アンケート結果で行った。 ・学力向上、体力向上については目に見える成果は出ておらず、道半ばである。 ・「研究・研修を通して学校を変える」という学校経営方針の下、これからも試行錯誤しながら、よりより学校を目指して追究を続ける。
神奈川	横須賀市立浦賀小学校	地域連携が子どもの学びを支える ～「地域とともにある学校」を目指して～	【研究の成果】 コロナ禍で一度途絶えた地域連携を単に「元に戻す」のではなく、地域コミュニティの向上という視点をもって、地域教育力を有効に活用することができた。学校は児童のよりよい学びのために地域教育力を活用するが、それは「学校を核とした、地域の人と人との結びつき」に寄与することになり、さらに地域の活性化によって児童の地域への思いがよりポジティブになるという好循環が生まれている。 地域学習の成果を児童が発表し、発表後に児童と地域の方が直接話し合う「いちばん星を考える日」など定着したイベントもあり、学校に対する地域の理解および協力体制の構築は着実に進んでいると感じている。
神奈川	相模原市立二本松小学校	誰もが「自己実現」できる学校づくりをめざして ～「働き方改革」の本来の意味とは～	【成果と課題】 （ビジョンの共有について） ・「誰もが『自己実現』できる学校づくり」という学校経営方針のもと、今年度の重点を「考動（こうどう）」（自ら意思決定し行動する）「協働」（仲間に働きかけ行動する）に絞ってしめしたことで、学校経営のビジョンを全職員で共有することができた。 ・「あいさつ」「聴く」「反応」という具体的な行動目標を「自己開放」「相手意識」という目的のために行うというような、目的をはっきりさせたことにより、職員が一丸となって、指導を徹底できるようになってきた。 （やりがいを大切にした学校経営について） ・会議のルールや日課の工夫などによって、職員が自分で使える時間を生み出すことによって、「心のゆとり」が生まれ、前年踏襲ではない「これをやってみよう！」という職員のアイディアを生かした取り組みが多くみられるようになってきた。 これからも、児童も教職員も、誰もが「自己実現」ができる学校づくりをめざして、取り組んでいきたい。
神奈川	秦野市立北小学校	教職員の心理的安全性を基盤とした校内研究デザイン ～令和版校内研究の確立を目指して～	学校教育目標である「心豊かに　たくましく　確かな学力を身につけた子どもの育成」に向けて、『Happy ＆ Smile！！』を研究主題として、全校で授業研究に取り組んだ。児童が通いたいと思える学校であるとともに、教職員が勤めたいと思える学校づくりが大切であると考え、教職員の心理的安全性に考慮した学校研究を意識し、教職員の自己決定を重んじた希望制のテーマ別グループでの研究を進めた。このことにより教職員のより主体的な研究が展開され、授業改善が進み、児童の心理的安全性が担保されることでの不登校の減少や学力調査の結果の改善などが見られた。また、近隣中学校や幼稚園・保育園との連携も進み、教職員の児童理解や系統的な教育指導の視野も広がった。
神奈川	川崎市立夢見ケ崎小学校	子どもが主役となる学校づくり ～かかわりを通して、楽しみながら学びを深める子をめざして～	研究の成果 ・「確かな学び」「豊かな心」「健やかな体・子どもの安全」の柱で教育活動を進めた。 ・「確かな学び」では、国語の研究を通して授業改善に努め、自分の考えを分かりやすく伝える力や、友達の意見をよく聞く力の育成を図った。その結果、友達と関わり合いながら意見を比較して聞く姿が見られ、協働的な学びに発展した。 ・「豊かな心」では児童が主体となる活動として、委員会活動や縦割り活動の充実を図った。異学年の児童同士が関わりを深めながら、よりよい学校生活を築こうとする姿が見られるようになった。 ・「健やかな体・子どもの安全」では、体育学習の工夫や児童が主体的に取り組んだ運動集会を通して、運動に親しむ児童が増えた。また、避難訓練等を通して「自分の身は自分で守る」という意識の向上も見られた。

令和7年度　教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
神奈川	三浦市立南下浦小学校	統合による新しい学校づくりと若手人材育成の取組 ～小規模校の強みを生かして～	【研究の成果】 ＜統合支援担当教員と専科による空き時間を活用したT2の配置＞ ・各学年2名体制の授業支援は、児童一人一人に丁寧に寄り添い、個々の学びへの意欲を高めるために有効な手立てとなった。（児童アンケート　授業が分かりやすい90％） ・各学年2名体制の授業支援により、児童一人一人の児童理解を学校全体で深めることができた。 ＜校内研修の実施＞ ・子どもたちへの支援の手立てやより良い授業づくりに向けて協議し、各グループで出されたキーワードを職員室の出入り口（内側）に1年間掲示したことで、常に意識しながら学級経営・授業づくりに取り組むことができた。 ＜考えることを促す学校生活の決まり＞ ・「学校のやくそく」をシンプルかつ少なくしたことで、問題が発生する都度、「学校のやくそく」立ち返り、行動を振り返ることができた。 ・「学校のやくそく」を一人一人が自分で考え、判断し行動する姿が多くみられるようになった。 【今後の課題】 ・児童の学習意欲をさらに引き上げる、若年層教員の授業技術の向上が急務である。 ・懸念していた指導体制（統合支援専任担当、T2支援体制）については、今年度の成果が認められ、同程度の人員が次年度も配置されることが決定した。
神奈川	茅ケ崎市立第一中学校	「インクルーシブな学校づくり」を目指して ～茅ケ崎一中　10年間の取り組み～	1．研究の成果 ･生徒の主体性と共生文化の醸成：10年にわたるUD視点の環境整備と授業改善により、生徒が主体的に学び、互いを尊重し合う「共生」の文化が根付いた。 ･生徒の安心感向上と授業改善の定着：学校評価では、9割以上の生徒が学校生活への安心感や授業の工夫に肯定的な回答をしており、確かな成果が見られた。 2．今後の課題 ･環境の維持管理：導入したタイマーや防音用テニスボール等の設備の老朽化対策が長期的な課題である。 ･研究成果の継承：教職員の異動がある中で、10年間のノウハウを「学校の文化」としてどう伝承していくかが重要である。 ･不登校支援の深化：依然として多い不登校生徒に対し、さらなる環境改善と個別の困り感の解消が求められる。
神奈川	座間市立相模中学校	一人ひとりが成長を実感できる授業づくり ～ICTを使ってみるから活用へ～	○研究の成果 ・「一人ひとりが成長を実感できる授業づくり」を掲げ、全教員による研究授業とICT活用を推進した。 ・OPPA（1枚ポートフォリオ評価）のデジタル化などの「仕掛け」を通じ、生徒が自身の変容を可視化し、主体的に学ぶ姿が見られた。 ・研究協議を重ねることで、ICTを単なる「目的」から、思考の共有や個に応じた学びのための「手段」として捉え直す教員の意識改革が進んだ。 ○今後の課題 ・生徒の成長を多角的に捉えるため、学習の「ふり返り」の視点をより本質的な　問いへと具体化・焦点化する必要がある。 ・多忙感の中で授業参観や協議の質を維持するため、単元単位の公開週間設　定や指導案の簡略化など、持続可能な研究体制の構築が求められる。
神奈川	秦野市立西中学校	「PTSCA活動」と「学校運営協議会」の連携について ～「地域とともにある学校づくり」の実現に向けた取組～	「PTSCA活動」と「学校運営協議会」の連携により、「地域とともにある学校づくり」を推進した実践の成果が表れてきている。「防災」「地域行事」「学力保障」「安全活動」「企業連携」の5本柱を軸に、生徒・保護者・教職員・地域が協働する体制を構築し、生徒の主体的な社会参画や地域による学校への積極的な関わりが図られる中、地域との相互理解を深化させることができた。また、活動を継続し、持続可能な運営体制へと発展していくことも重要である。さらに、大学や企業との連携による学習支援や体験活動を通して教育効果の向上が図られ、学校と地域が相互に支え合う仕組みが確立されてきている状況にある。
神奈川	神奈川県立横浜平沼高等学校	「組織」的な授業の改善の実施 ～主体的に学び、アウトプットする能力を身につける〔即興型ディベートの要素を取り入れた授業〕～	【研究の成果】 ・学校として統一した研究テーマを設定したことによって、全体として同じ方向を向いて授業改善を実践することができた。 ・他教科の授業見学をすることを必須としたことによって、多角的な視点で授業見学をすることができ、新たな視点を得ることができた。 ・授業改善に特化した定期的な教科会を導入し、意見交換や相談をすることによって、組織的に授業改善に取り組むことができた。 【今後の課題】 ・より授業改善を発展させていくためには、個々の取り組みをより主体的にしていかなければならない。組織的な授業改善に対して、まだ受け身の雰囲気があるので、ルールや枠組みを整えていく必要がある。今年度の取り組みを土台にさらに発展させていく。

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
新潟	糸魚川市立糸魚川小学校	違いを認め合い、ともにかがやく学校生活の創造 ～特別支援学校との共創による学校運営を通して～	【研究の成果と課題】 1成果 ・両校連絡会を中心に、職員の意見を生かした連携・協働により、共通認識に基づく交流活動を展開できた。 ・特別支援教育担当者による発達段階に応じた事前指導により、子どもたちは落ち着いて交流することができた。 ・4年生を重点学年として計画的に交流を重ねたことで、異なる立場の相手を認め合う姿が見られ、リーダー性が育まれた。 ・日常的な自然な触れ合いが増え、生徒指導上の問題の減少、早期解決につながった。 ・両校の職員間にも学び合う親和的な関係が広がっている。 2課題 ・交流への期待の違いや相互理解の不足がある。また、持続可能な交流の在り方や合理的配慮への理解促進、及び保護者・地域への発信強化が必要である。
新潟	小千谷市立小千谷小学校	発達支持的生徒指導の視点を活かした学校経営への3つのアプローチ ～WEBQU・生活集会・授業づくり～	【研究成果】 発達支持的生徒指導の視点を生かして3つの手立てを講じた。WEBQUを活用した学級づくりシートの作り、「授業づくりは学級づくり」の校内研修における指導案検討・研究協議会の級外の授業担当者の参加の2つの手立てによって、学習面・生活面における児童の実態をより多面的・多角的に捉え、課題に対する手立てをその学級の教科指導を担当する全員(”チーム授業者″)で共有・実施できるようになった。もう1つ の手立てである生活集会の直後に行う学級指導でも、担任が不在時でもチーム授業者の誰かがその学級に入り、生活集会直後の一番効果的なタイミングを逃すことなくスムーズに指導できるようになった。 3つの手立てのキーワードは「多くの教員が1つの学級に関わる」である。今後も、「多くの目で見て、多くの教員で指導する」方策を探っていく。
新潟	新潟市立下山中学校	理科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて ～学びに向かう態度に焦点を当てた「振り返り」の実践～	成果 ・振り返りの工夫により、生徒の記述は感想中心から、疑問や考えの表出へと発展し、A評価が増加するなど質的向上が見られた。 ・全体共有を通して、生徒の疑問を次時の学習課題につなげることで振り返りの質が高まっていった。 ・書き直しの姿から粘り強さや自己調整といった非認知能力との関連も示唆され、自由研究等へ学びが波及する副次的効果も確認された。 今後の課題 ・空白提出や感想的記述にとどまる生徒が一定数おり、全ての生徒にとって振り返りが学びを深める場になっていない課題が残った。 ・記述量に困難を抱える生徒への多様な支援の工夫が必要である。 ・1年生段階からの系統的な指導を行い、振り返りを通して問いを立てる姿勢を早期に定着させる必要がある。
石川	石川県立松任高等学校	高校生による町探検動画の作成 ～地域に根ざしたコミュニティスクールとしての取り組み～	今回、約1分の動画（聖興寺、白山比咩神社、吉野工芸の里、錦ケ滝、弘法池、鳥越城跡、まっとうまちなか商店街町探検）7本を作成することができた。これらの動画を、文化祭、産業教育フェアで来られた一般の方、小中学生（約100名）、総合的な探求の時間成果発表会にて2年生全員（78名）に見せた。VRゴーグルやPC等の情報機器から動画を見せるとなると、長時間の動画では、見るのがつらくなり、見てもらえないということが起きてしまう。そこで、1分程度の観光及び町探検動画を複数本作成し、飽きさせないように工夫した。また、動画に文字や音を入れることにより、楽しんでみてもらえるようにした。これを受けて、視聴者の立場で見たときに、学び、発見及び驚きが得られるような動画にするかが重要であると感じた。
石川	石川県立大聖寺実業高等学校	サスティナブルツーリズムビジネス創造プロジェクト ～観光を軸にした実学を通して深める学習～	【研究の概要】 　本プロジェクトでは、持続可能な観光を軸に地域活性化と実学教育を推進した。最大の成果は「観光甲子園SDGs修学旅行部門」での決勝進出（応募509件中ベスト5）である。 　具体的には、大同工業株式会社の粉砕技術を活用し、片山津温泉源泉と石川県産米「ひゃくまん殻」を用いた若者向け香水を開発。さらに、VR動画やプロジェクションマッピングによる集客、中学校の修学旅行誘致も実現させた。企業や金融機関との連携を通じてSDGsや金融リテラシーへの理解を深めつつ、環境・文化・経済の視点から地域観光の発展に寄与する実践的な学びのモデルを構築した。

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
長野	栄村立栄中学校	子ども主体の義務教育学校をつくる ～当事者性と主体性の育成を目指して～	成果 ・「子どもが行事を創る」「教師の任せる、待つ、見守る支援」を継続してきた結果、運動会や文化祭などの行事において当事者意識が向上し、自分達の「やりたい」を形にすることができるようになってきた。 ・日常の学校生活においても、子ども達一人一人が進んで行動する姿が増えた。特に、授業では、自ら課題を見つけ追究し、振り返って次に生かす課題といったサイクルをまわしながら学ぶ姿が広がっている。 課題 ・これまで担任する教師中心による学級経営のあり方を見直し、チーム担任制(3つの学年全体を7名の職員でチーム担任する)を導入することで、生徒色の学級づくりに変えていく。
長野	箕輪町立箕輪中学校	生活指導のあり方を問い直す ～「みのわBASE」について考える取組を通して～	【成　果】 ・「第三の居場所」の確立と利用の浸透：多くの中学生が学校帰りに友達と話したり勉強したりする「第三の居場所」として定着しました。 ・生徒の行動変容と主体性の向上：施設管理者（Aさん）との対話やアンケートを通した自省により、生徒の利用の仕方が劇的に改善されました。スタッフへの積極的な声掛けや、学校の枠を超えてイベント運営に携わる生徒が現れるなど、地域社会の担い手としての自覚と主体性が育まれています。 ・道徳性を育む教育実践：みのわBASEを「教材」とした道徳の授業等により、表面的なルール遵守だけでなく、「公共の場にふさわしい自分のあり方」を内面から問い直す取組が行われました。 ・地域・施設との柔軟な連携体制：学校・施設・教育委員会が連携し、一方的な指導ではなく、アジャイル（試行錯誤）の構えで対話を重視した指導体制が構築されました。
岐阜	白川町立白川中学校	消滅可能性自治体から光の矢を放つ ～美濃白川学（白中編）の実践を通して～	○成果 ・中学生の提案に対して、大学生も含めた大人が真剣に耳を傾け、意見や質問等を積極的にかつ等熱く語っていただけることで、子どもたちの本気度と町づくりへの意識が一層高まった。地域の大人の協力体制に感謝するとともに、存在の大きさを実感した。 ●課題 ・名古屋市立大学の学生との交流等について、活動のねらいをより明確にし、年間を見通してより効果的な時期に位置付ける必要がある。 ☆次年度に向けて ・令和8年度内に、現在使っている校舎から新校舎への引っ越しが行われ、旧校舎の解体工事がはじまる。ふるさと教育の一環として、旧校舎への感謝の思いを学びにつなげながら、地域と共に新たなを展開していく。
岐阜	岐阜県立長良高等学校	高校生がかぶりたくなるヘルメット制作	ヘルメットデザインコンテストを開催した目的は、多くの人がヘルメットに目を向け、興味関心を持ってくれることであった。この活動を通して実施したアンケートにも、ヘルメット着用が大切であることは理解しているが、かぶることに抵抗を感じていると回答した生徒が多くみられた。だが同時に、多くの生徒が自分なりのアイデアを持っていることもわかった。取組を通して、寄せられたアイデアや意見を参考に、実際に着用可能な「高校生による高校生のためのヘルメット」を制作してみたが、現在、目に見えて大きく着用率を上げることはできていない。しかし、このような取組を紹介することで、本校生徒のみでなく、県内外の高校生がヘルメットについて考え、着用率の上昇と自転車交通事故による重傷者、死亡者の減少に繋げていくことが最終的な目的であり、今後の課題でもある。
静岡	静岡県立富士宮北高等学校	静岡県立富士宮北高等学校における柔軟な服装週間の取組 －マイコーデウィークの実践－ ～生徒エージェンシーを育む学校教育を目指した特別活動の取組～	1．研究の成果と課題 【成果】 ・柔軟な服装期間により、暑さ対策としての効果が高く、生徒の快適性が向上した。 ・約88 %の生徒が主体性の向上を実感し、自ら考え選択する経験につながった。 ・TPOや規範意識を考える機会となり、教育的意義が確認された。 ・自己表現や学校生活への主体的関与を促す契機となった。 【課題】 ・服装基準の曖昧さとなるため、指導の統一性は弱まる印象となり、教職員のマインドセットが必要となる。 ・教職員、保護者から経済的負担やルッキズムの懸念が指摘された。 ・一部で授業規律や集中力への影響が見られた。 ・主体性が一時的なものか継続的なものか検証が必要である。 2.今後の展開 生徒会が学校として服装等をどう考えていくのか議論を開始した。 柔軟な服装週間は、冬季にも実践した。今後その成果を踏まえ、令和8年度にさらに取り組みを拡充する。

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
静岡	静岡県立掛川東高等学校	教職員の「探求」が拓く学校の未来 ～生成AIを活用した業務効率化と生徒の心理的安全性向上～	【研究の成果と今後の課題】 ICTと物理的環境の改善を組み合わせることで、心理的安全性の高い対話空間が構築された。AIツール「NotebookLM」の活用により、教員の主観に頼らない客観的なデータ共有が可能となり、生徒が自ら最適なアドバイザーを選択できる生徒主体の相談体制へと進展した。また、移動式ベンチの導入は「教卓を挟む」という心理的障壁を取り払い、中庭等での開放的な面談を通じて深い自己開示を促す結果となった。これにより、教員の専門性が適材適所で発揮され、指導の質の向上と負担軽減が同時に実現した。今後は、蓄積されるデータの鮮度維持や、オープンな空間におけるプライバシー保護の最適解を検証していくことが課題である。
愛知	愛知県立天白高等学校	総合的な探求の時間　マトリクス普及大作戦 ～教員間の連携・生徒とのやりとりを円滑にするために～	「ワークシートをほぼゼロにする代わりに、3学年すべての探究に共通の、シンプルなフレームワークを共通ツールとし、それを使って生徒と教員の一対一のやり取りを必須にする」という形態の普及に踏み切った。一番の成果としては、①「マトリクス＝探究」、②「探究＝やりとりが必須」という共通認識が生徒・教員ともに確実に根付いたことである。しかし、既存のワークブックやテキストとの兼ね合いが難しく、完全な一本化にまでは至れなかったため、今後の課題としたい。助成金により、総合担当者が質の良い発表会に何度も参加できたため、来年度に向けての新たな視点を得ることができた。まずは各担当者自身が、探究の精神を常に持っていたい。
愛知	愛知県立千種高等学校	次世代型イノベーティブ・グローバルリーダーの育成 ～「愛知の力」を原動力に～	食品ロス問題や飢餓による食糧不足の解決につなげたいと考え、フードドライブ活動の普及に向けた取り組みを行ってきた。フードバンクの参加・支援方法として、コンビニエンスストアと連携することで、教員の手を借りず生徒だけで完結する仕組みを確立させた。この活動を愛知県内の他の高校に広めるためのマニュアルを作成し、名古屋市内の高校に協力を依頼した。現在10校で実施に向けた検討が行われている。また、食糧支援の現状を把握することを目的に、子ども食堂を定期的に訪れ、食支援を必要とする人々との交流も行ってきた。これらの活動成果を第11回愛知県ユネスコスクールESD・SDGs活動成果発表会(国際協力機構(JICA)中部センター)、第11回待兼山会議(大阪大学)で報告した。
愛知	大治町立大治小学校	児童も生徒も笑顔で生活できる学校づくり ～組織・時間・研修づくりを通して教師の主体的な学びの構築を図る～	今年度の研究成果と課題 本年度は「組織・時間・研修」の再構築により、校務の明確化や教材研究時間の確保、学年を超えた協働体制の構築において着実な成果を得た。教職員の主体的な研修参画が進んだ一方で、熱心さゆえに創出された時間を更なる業務に充ててしまい、心身の疲弊を招くという「持続可能性」への課題も浮き彫りとなった。 また、不測の欠員に対する業務維持体制や、指導基準の共通理解についても改善の余地がある。次年度は、整えられた環境を基盤としつつ、業務の精選（引き算の視点）と指導の標準化を推進したいと考えている。教職員の「心のゆとり」を維持できる柔軟な組織運営を通じ、子ども一人ひとりに寄り添う教育の質向上を目指したい。
愛知	江南市立宮田小学校	感動が生まれる授業の創造 ～ウェルビーイングの向上を目指して～	【研究の成果】 ・宮小課題に取り組むことで、「もっと知りたい」と夢中になる姿や、「そうか！」と感動を味わう姿が増えた 。 ・幸せを感じる子供の割合や、あきらめずに解こうとする姿勢（生徒エージェンシー）、友達と協力して解決しようとする態度（共同エージェンシー）が全国平均を上回った。 ・話を聴き合う土壌が育まれ、授業中の対話やリアクションが豊かになった。 【今後の課題】 ・「自分にはよいところがある」と感じている児童が全国平均を下回っており、友達から認められたり、自らの頑張りを見つめ直したりする機会の確保が必要となる。 ・課題に対して前向きになれない子供への配慮や、全員が「解決に貢献した」と実感できる手立ての構築が求められる。
愛知	犬山市立城東小学校	自ら学び　高め合う　城東の子 ～温かな人間関係をベースとした、子供の問いから始まる学びを通して～	本研究は、「自ら学び高め合う子供の育成」を目指し、子どもの問いを出発点とした授業づくりと、温かな人間関係を基盤とした学び合いの充実に取り組んだものである。学級力レーダーチャートや指導プランの活用、図書館教育との連携、保護者・児童アンケートの分析を通して、学校全体で継続的な授業改善を推進した。その結果、子どもが見通しをもって主体的に学ぶ姿や、安心して学習に取り組む環境の向上が見られた。一方で、粘り強く課題に取り組む力や、相手を意識した言葉づかいには課題が残った。今後は、問いの質を高める指導と学力との関連をより明確にし、実践のさらなる充実と発展が求められる。

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
兵庫	明石市立大久保中学校	自然科学と情報科学の融合による探究活動を通じて生徒の生きる力を育む研究	研究成果 ・自然科学(生物飼育・植物栽培)と情報科学(ICT・プログラミング)を融合した探究活動を通して、生徒自らが課題を発見し、主体的に探究へ取り組む学習過程の定着が見られた。また、観察・実験結果を基に考察を深める姿が増え、継続的な探究意識の育成につながった。 ・繁殖現察や栽培実践、ロボット制御の活動では、失敗を基に改善策を考え、試行錯誤する姿が見られ、科学的思考力や協働性、主体性の向上が確認された。 ・ICTによる記録共有と発表活動により学びの可視化が進み、生徒同士の学び合いが促進されるとともに、理科授業への活用など校内への波及効果も生まれた。 課題 ・キュートボットの活用や発表活動を発展させ、青少年科学の祭典への出展を目指した探究活動に取り組んでいる。 ・今後は実践成果を整理・検証し、再現性のある探究学習モデルとして継続的な教育実践へ発展させていくことを課題とする。
兵庫	太子町立太子東中学校	不登校支援とAI活用の実践報告 ～ICT環境を活かした多面的支援と学びの再構築～	本研究は、不登校支援を個別対応にとどめず、学校全体の教育実践として再構築することを目的に、三層的支援モデルとAI・ICTを統合した実践研究です。学習履歴や行動記録を活用することで、生徒理解を経験則のみに依存せず、客観的根拠に基づく支援体制を構築しました。また、個別最適な学習環境や多様な参加形態を保障することで、生徒が自分のペースで学びを継続でき、心理的安全性の向上にもつながりました。AIを教師の専門的判断を支える補完的存在として位置づけた点に、本研究の意義があります。 今後は、AI・ICT活用の組織的定着と、教育データの適切な管理および倫理的配慮を一層推進していく必要があります。
奈良	平群町立平群小学校	「しなやかな」学校をつくる ～教員不足にも柔軟に対応できる学校を目指して～	【成果】OJTの充実（ベテラン、ミドルリーダーの活躍） 欠員を抱えながらではあったが、低学年・中学年・高学年の各ブロックに若手教員にかかわるベテラン教員やミドルリーダーを配した。豊かなコミュニケーション能力に裏付けされた望ましい同僚性の構築を背景に、ベテラン及びミドルリーダーが発揮した日々の指導力によるところが大きいと考える。 【課題】教職員の不足と若手教員の増加（ベテラン教員の不足） 全国的な課題であるが、世間が捉えている以上に深刻であると考える。多様化する児童や保護者に対応するためには教職員の質の担保は欠かせない。OJTで賄える部分とそうではない部分があると感じている。
岡山	倉敷市立黒崎中学校	心豊かにたくましく未来を拓く生徒の育成 ～ICTと協業学習を取り入れた授業づくり～	本研究では ①ICTを使う場面と生徒が協働学習を行う場面を入れる ②校内での公開授業を年1回以上行う の2つを取り入れた実践を行った 360度撮影できるカメラで撮影し、不参加だった教員は映像を見てコメントする 成果 ・公開授業に向けてICTを使う機会が増え、生徒、教師共に活用スキルが上昇した ・班でコミュニケーションを取りながら、分担をして共同編集ができるようになった ・他の教員の授業を見ることで、参考になる面がたくさんあった 課題 ・ICTを使わない方が良い場面で使っている ・生徒のタイピングの速度の差が大きいと進度に差が出る ・教員によるICT機器の利用率の差が大きい ・毎回協働学習にすると予想以上に時間がかかる場面がある

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
岡山	岡山県立岡山工業高等学校	STEAM教育による生徒主体の防災活動 ～災害図上訓練（DIG）による災害リスク等の可視化とその展開～	○「岡工STEAMラボチーム」による研究の成果 ・京山地区ESD・SDGsフェスティバルでDIGマップ作成の研究成果を発表 ・防災ウォークラリー参加により、地域の危険箇所を調査・記録 ・災害発生を想定した考察を基に、主体的にプレゼンテーションを実施 ・チームで企画・制作・発表まで一貫して取り組む力を育成 ・今後は、地域の小中学校や県の防災士会と連携し、街歩きを実施するなど、危険箇所のリスク調査や啓発につなげる ○「台湾グローバルチーム」による研究の成果 ・台湾の姉妹校訪問にて、現地生徒とDIGマップワークショップを実施し、防災施設や危険箇所を共同で把握 ・高雄岡山駅周辺の浸水事例を共有し、防災意識を向上 ・台湾の防災体制や助け合いの文化を学習 ・国際的な相互理解と協力の重要性を実感 ・今後も姉妹間交流を継続し、両国の防災体制の理解や共有、助け合い文化の深化につなげる
岡山	岡山県立笠岡商業高等学校	地域の未来をつくる高校生株式会社 ～課題解決型ビジネスの実践～	【研究の成果】 ・「株式会社笠JOB絆」を設立することができた。 ・税理士の講演会などは、教科書で学んだことが現実に頭の中で結び付き、生きて働く知識になった。 ・定款作成や登記のための法務局への訪問などは、よりリアルなビジネスの学びを体験することができた。 ・会社名や企業理念など、生徒の思いを形にすることができた。 【課題】 ・今後は、株式会社の運営が重要であり、目的や目標を明確にして、開業から決算までの流れを確立したい。 ・税金や配当金として最低限かかる費用もあるので、どのように利益を上げていくかを考えていきたい。 ・地域の学校として笠岡の「街おこし」に貢献し続ける存在でありたい。 ・「学び」と「体験」を結び付け、どのように生徒が成長しているか、評価していく必要がある。
広島	安芸高田市立吉田小学校	教育課題に即応する学校体制づくり ～チーム担任制の実践～	現在の教育課題に即応するためチーム担任制を導入した。 チーム担任制による担任業務の協働化で、多様なニーズに応えるとともに、教員の心の余裕を生み出すことも期待した。 令和6年度から本格実施を始め、教育課題の対応策の一つとして機能している。 児童には、異なる教員との関りが新鮮さをもたらし、「合わない」教員との長期的な関係を避けることができるメリットがある。 保護者は多数が肯定だが、不安や新入生に固定担任を求める意見がある。 地域には、チーム担任制の取組を伝えていく必要がある。 職員は、チームワークや業務の精選が進んだとする一方で、児童との信頼関係の構築に課題も感じている。 今後は、教員の異動も踏まえ、ブラッシュアップや持続可能な仕組みづくりが重要である。
広島	府中町立府中中央小学校	学校教育目標「自ら伸びる」を追求する学校づくり	【主要な研究成果】 研究内容は、コミュニティ・スクールを核とした地域とともにある学校づくりについてである。学校教育目標「自ら伸びる」を軸に子供を取り巻く大人たち（教職員・保護者・地域）が互いにつながりながら、子供の育つ土壌を耕していくことで、教育課程の質的向上を図っていった。これらの過程を学校の成熟と捉えるにつれ、教職員自身が自らの使命（役割）を問い直し、子供を見つめる〝まなざし〟の研鑽を図っていった。 今後は、ずれを埋める「連携」から「協働」への転換を図ることで、更なる質的向上をめざしていく。

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
山口	周南市立富田中学校	Well-beingな学校づくりを通したセルフマネジメントの育成 ～「健康になろう！プロジェクト」の成果と本年度の挑戦～	本校では、Well-being な学校づくりを通したセルフマネジメント力の育成を掲げ、「健幸になろう！プロジェクト」に取り組んだ。 （成果） ⑴生徒の自己肯定感の向上 ⑵不登校生徒の減少 ⑶保健室来室者の減少 睡眠票やアンケートで生徒の生活を可視化して改善を促すことで、不登校を始めとする生徒の「生きづらさ」が減少した。また非認知能力の育成が、セルフマネジメント力を向上させることにもつながっている。 （課題） ⑴電子スクリーン症候群（ESS）の問題解消 ・学校内におけるESSからの回復プログラムの構築 ⑵部活動終了後の生徒の放課後の充実 不登校予防の方向は見えたが、既に不調を来している生徒への対処までには至っていない。学校でもESS回復プログラム等を用いた支援も必須である。その際、部活動の地域移行も視野に入れ、生徒に新たな生活スタイルを提示していく。
福岡	行橋市立今川小学校	問題を科学的に解決する子どもを育成する理科学習指導 ～問いの連続性のある問題解決の過程を通して～	○研究の成果 主体性の向上 90 %の児童が理科を「楽しい」と回答。問題解決過程の導入が知的好奇心を刺激し、学ぶ意欲を高めた。 科学的思考の定着 ICTを活用した「比較する活動」により、結果に基づき自然のきまりを見いだす力が向上した。 考察の客観化 端末の動画・写真で結果を振り返ることで、事実を正確に捉えた妥当な考察が可能になった。 ○今後の課題 思考の質の向上 根拠のある予想の立案や、実験方法の構想には依然として苦手意識が見られる。 ICT活用の精緻化 他者の意見の安易な模倣を防ぐ工夫や、記録・共有にかかる時間配分の最適化が必要である。 比較視点の明確化 自他のズレを深めるため、比較すべき観点の具体的な提示が求められる。
福岡	行橋市立行橋南小学校	主体的に学びをつくり出す児童を育てるICT活用授業 ～自分の考えを整理し、深める活動を通して～	【研究の成果・今後の課題】 本研究では、単元のゴールと評価を明確にした学習過程（シンキング・サイクル）を設定し、見方・考え方（シンキング・レンズ）を働かせた表現活動やスタディ・ログを活用することで、児童が見通しをもって主体的に学ぶ姿が見られた。特に、根拠をもとに自分の考えを表現する力が向上した。一方で、評価基準の具体化や評価場面の明確化、発達段階に応じたスタディ・ログの在り方など、実効性を高めるための整理と改善が今後の課題である。
福岡	大木町立大木中学校	地域と共にある学校づくりをめざして ～本校の学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）の取組を通して～	1. 成果 本年度の取組の成果として、下記の事項が挙げられます。 (1)「支援してもらう」から「共につくる」へ 学校と地域がパートナーとして目標を共有し、一体となって子どもを育む「地域と共にある学校」への取組の浸透ができてきた。読書ボランティア、高校生ボランティア、入試面接練習への地域住民の参加など、支援の幅も広がっており、今後は、一方的な支援ではなく、双方向の「地域をつくる」という意識や取組の転換を図ることができつつある。 2. 課題 課題として、以下の2点が挙げられます。 (1) 交流対象の限定性 学校運営協議会委員と生徒会役員の交流は実現したものの、全生徒および全職員が関われる体制づくりがまだ不十分です 。 (2) 保護者の理解不足 アンケートでは約60％の保護者が教育効果について「わからない」と回答しており、家庭への制度周知と協力依頼が急務です 。

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
長崎	長崎市立稲佐小学校	ねばり強く自ら学ぶ子の育成 ～子どもに学びを委ねる授業実践を通して～	本校では、「子どもに委ねる授業」の実践を通して、「メタ認知能力」「計画実行する力」「乗り越える力」の3つの力を高め、主体的に粘り強く学ぶ子どもの育成を進めている。 ≪3つの力のポイントと自己評価≫ ・メタ認知能力…「自己選択・自己決定」の機会創出、「なりたい自分」の学びの姿の振り返り。≪肯定的評価82％≫ ・計画実行する力…自分に最適な学びの設定と進捗管理。（活動の可視化が支援のポイント）≪肯定的評価86％≫ ・乗り越える力…困ったときがステップアップのチャンス。（根気と集中、学び合い、頼る勇気）≪肯定的評価96％≫ 「自分で学ぶことが楽しい」と回答している児童は、全校で95％となっている。
長崎	平戸市立中野中学校	ふるさと教育の充実を目指した特色ある教育課程 ～起業体験学習・伝統芸能の継承より～	（1）研究の成果 〇様々な取組を通して、生徒たちは、仲間同士で意見を交換し、考えを深めていく過程で、生徒たちは、地域の問題を真剣に受け止め、自分事として考えるようになった。 〇自分たちにも、中野地区を元気にするために、このような活動ができることを実感、体験し、微力だが地域のために力になれることを感じていた。 〇地域のたくさんの方々、そして先生方に支えられながら生活していることに感謝の気持ちが大きくなった。 〇地域とのつながりが、とても深くになり、地域からも感謝の言葉やお褒めの言葉をいただき、生徒たちは達成感を感じるとともに、地域に対する愛着の念が深まった。 （2）課題 〇持続可能な取組にするために、より「生徒が主体の取組」になるようなしくみ作りを強化すること 〇生徒自らの育んでいく力を把握できること、つまり、メタ認知ができるようになること
長崎	対馬市立大船越中学校	「ふるさと対馬」を学び、活かし、伝える力の育成 ～模擬株式会社「船中商店」による商品開発・販売活動を通して	【成果】 ・起業体験学習と教科横断的な学びの関連により、課題発見・解決力、協働性、発信力が向上。 ・地域資源を活用した商品開発(紅茶ワッフル等)を通して、郷土理解と愛着、主体性が育成された。 ・地域人材との連携により、実践的な知識や技能、キャリア意識が高まった。 ・株券発行や販売活動を通して、計画性や責任感、経済的な見方が育成された。 ・全校体制での活動により、異学年協働やリーダーシップの育成が促進された。 【課題】 ・各教科との有機的な接続を図り、起業体験学習で得た学びを各教科の学習内容へと還元することで、学習と実践をつなぐ循環を意識した指導の充実。 ・学びの振り返りを充実させ、生徒の成長が分かる評価の工夫。 ・持続可能な運営体制を整え、地域の人材を生かした連携を進めることで、地域の活性化に貢献する。
熊本	菊陽町立菊陽北小学校	「働き甲斐改革」学校経営マネジメント ～生徒指導上の課題を激減させる「KIKUKITA5メソッド」の構築に向けて～	本研究は、生徒指導上の諸課題が多い大規模校において、学校経営マネジメントと働き「甲斐」改革を軸に、教育活動の質的改善を図った実践である。 「KIKUKITA5メソッド」として、教育課程・校内研修・学校運営・資質向上・学校応援の五つの視点から業務改善を行った結果、教職員の時間的・心理的余裕が生まれ、児童と向き合う時間が増加した。その成果として、校庭徘徊や授業逸脱行動などの生徒指導事案が大幅に減少し、職員の協働意識や組織力も向上した。働き方改革を量から質へ転換することが、生徒指導改善と学校力向上に直結することが明らかになった。
熊本	熊本市立植木小学校	教員の「働きやすさ」と「働きがい」を高めることを両立した学校づくり ～校内OJTの環境づくりを通して～	本校の教育目標である「気づき・考え・行動する自立と共生の力を備えた子どもの育成」に向けて、主体的、対話的で深い学びの授業になるように研究を進めてきた。 　研究助成により、お茶の水女子大学附属小学校の研究発表会への参加、関連する書籍の購入、主体性や対話性が生まれる教材の購入などにより、職員の意識が高まり、研究を深めることができた。 実際に職員へのアンケート「子どもが自分で考え、自分から取り組む授業づくりに取り組んでいると思いますか。」に対して、全員の職員が「そう思う」約67％「どちらかと言えばそう思う」約33％と答えている。

令和7年度　教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
宮崎	小林市立紙屋中学校	誰一人取り残さない持続可能な学びを進める学校経営について ～学校経営ビジョンを軸とした循環型環境教育の実践を通して～	【成果】 〇生徒たちの人間関係のトラブルは激減し、嫌なことは我慢せず、嫌だと自分の意思を表明し、解決に向けて努力しようとする強く前向きな姿勢が見られるようになった。 〇リーダー育成に取り組んだ効果もあり、生徒主体の活動も増えて学校全体が落ち着きを取り戻した。 【課題】 〇職員や生徒の成長につながる校内主題研究について、内容を充実させながら、今後も継続して研究を推進していく必要がある。 〇職員や生徒が入れ替わっても持続可能な学びを推進するために、OODAループを引き続き活用するなど、やるべきことの方向性を全職員で共通理解し実践する必要がある。
鹿児島	鹿児島県立市来農芸高等学校	「クマザサ活用」による持続可能な環境教育 ～家畜昆虫によるプロテイン革命～	学校と地域が連携し、農産残渣（米ぬか・籾殻・おから等）を活用したコオロギ飼料システムを構築した。発酵過程で生じる熱を飼育保温に活用し、外部エネルギー消費を抑制。校内に飼育施設を整備し、採卵鶏や魚類への給餌試験を実施するとともに、水産業者や大学と連携して機能性成分の分析や無魚粉飼料の開発を進めた。さらに桑葉やクマザサを用いた飼料設計や感染試験も行い、実用性を検証。IT企業と生育記録アプリを開発しデータ管理を効率化した。これにより、輸入飼料依存からの脱却、飼料コスト削減、温室効果ガス排出削減を同時に実現。多主体協働と教育活動を基盤に、技術継承と地域内循環を両立する持続可能なモデルを確立した。
鹿児島	屋久島町立八幡小学校	屋久島を愛する子どもの育成を目指して～3・4年の取組～ ～地域・企業との連携を通して～	【成果と課題】 屋久島の自然を体験的に学ぶ活動を通して、児童は固有種や生態系への理解を深め、自然への畏敬の念や郷土への誇りを育むことができた。また、レンジャーや地域との協働により、課題発見力や表現力、コミュニケーション力も向上し、持続可能な社会づくりに向けた主体的な行動意欲が高まった。 一方、レンジャーの人事異動や業務多忙により、継続的な連携体制の確保が難しい点が課題である。また、自然体験活動には安全管理の徹底が不可欠であり、危険箇所の把握や緊急時対応、装備指導など、組織的で安定した安全体制の構築が求められる。
鹿児島	鹿屋市立鹿屋小学校	自らの力で豊かな未来を切り拓く子供の育成 ～子供が自己調整する学びのデザイン～	主要な研究成果 令和6年度の研究課題から，「深い学び」の実現に向けた課題が明確になった。そこで,令和7年度は，学習課題や自分の「問い」の解決に向けて,子供自らが学びを調整しながら，教科等の見方・考え方を働かせる「深い学び」の実現に向けた授業改善を目指した。 【研究の成果】 (1)　子供にとっての成果 　〇　子供が「問い」をもち,「見通しをもつ」-「実行する」-「振り返る」の自己調整する学びのサイクルを回すことで，子供自身による学び方の改善が図れていた。 〇　「深い学び」を実感している子供が，徐々に増えてきた。 (2)　教師にとっての成果 　〇　「深い学び」について「考えの変容（強固・付加・修正）」と，本校なりに定義したことで,子供が学びの深まりを自覚するための手立てを明確にすることができた。 〇　教師にとっても，子供の考えの変容を捉え，評価するための具体的な手立てとなった。
鹿児島	姶良市立柁城小学校	自立した学び手を育てる学習指導の在り方 ～学び方の自己決定と振り返りの習慣化を通して～	【成果】 〇令和6年度全国学力・学習状況調査児童質問紙調査において、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」、「自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。」の項目で肯定的な回答が大きく伸びるとともに、学力にも伸びが見られた。 〇本校が独自に行った3～6年生対象の意識調査や児童の振り返りの記述からも良い変容が見られ、職員からは「授業で児童に委ねる場面が増え、主体的に学ぶ姿が多く見られるようになった。」「学び方について自分なりに工夫する児童の姿が増えた。」などと主体性の向上を感じる声が聞こえた。 【課題】 〇研究の取組を前進させるために、令和7年度は単元内自由進度学習を全学年で実施した。「柁城マイステップ学習」と名付け、複数教科同時進行で行う取組もスタートしたところ、児童が主体的に学ぶ姿が増えている。今後は、児童に提供する教材シートの質的向上を図るとともに、よりよい発展課題の設定や個々の児童の学習状況の見取り方について研究を深めていく必要がある。
鹿児島	湧水町立幸田小学校	小さな学校から未来をひらく ～幸田地区未来塾における山村家族留学と地域活性化の試み～	幸田地区未来塾の取組を基盤に、山村家族留学を核とした「教育と地域振興の一体化モデル」を実践した。学校の教育環境整備を出発点に、PTA活動の見直しや地域行事の活性化、棚田等の地域資源の教育活用、空き家活用による受入体制づくりを進めた結果、留学生家庭の受入れと地域交流が促進された。また、来訪・体験を通じた安心感が移住意識の醸成につながることが明らかとなった。小規模校を核とした持続可能な地域づくりの可能性を示した。

令和7年度　教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
鹿児島	出水市立大川内小学校	学校運営協議会と連携した地域とともにある学校を目指して ～子供たちの自己肯定感を育む自然体験学習活動の実践を通して～	主要な研究成果 ・感想カード記入など、活動後の振り返りにより、一つ一つの活動を価値付けることができた。また、地域の方へお礼の意味も込めて届けたり、新聞に投稿したり、子供たちが相互に感想を読み合うことで、学びの共有にもつなげることができた。 ・子供たちの感想に「できるようになった」「やってよかった」と実感している内容が増えている。アンケート結果から、自己肯定感に関するポイントも向上してきた。 ・学校運営協議会をはじめ、多くの地域の方々にご協力・ご助言いただいて、大川内の自然を活用した自然体験学習活動を推進することで、組織的に支援していただき、担当職員が変わってもスムーズかつ安全に行事等が行われる体制が整ってきている。
沖縄	沖縄県立沖縄盲学校	つなぎつながる開かれた学校を目指して ～生徒も職員も主体的に取り組むための仕掛け～	1　研究の成果 本研究を通して、本校の教育活動を俯瞰し「つなぎつなげる開かれた学校」を実現するための基盤づくりが進んだ。職員の不安や課題に寄り添いながら専門性を維持・継承する体制を検討でき、外部機関と連携しやすいという本校の強みを活かした環境整備の必要性も明確になった。助成金では音声電卓や点字指導手引きなどを整備し、授業改善と職員研修の時間の確保にも寄与した。 2　今後の課題 児童生徒の学びを保障しつつ、職員との対話を重ねながら主体的に研修へ取り組める環境づくりを継続し、「人・組織・地域をつなぐ学校」の実現に向けた仕組みを深化させていくことが課題である。

都道府県	学校名・個人	研究主題	主要な研究成果
北海道	月形町立月形中学校	エアロビクスを活用した学習プログラムの開発と実践的検証 ～「個別最適」×「協働」の学びを通した体力課題へのアプローチ～	【研究の成果】 ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体化したエアロビクス学習プログラムを開発し，その有効性を実践的に検証できた． ・生徒が自己の体力課題に気付き，主体的に運動プログラムを選択・改善する姿が見られた． ・形成的評価票や振り返り記述の活用により，学習の変容を可視化し，授業改善に生かすことができた． ・授業後も継続意欲を示す生徒が多く，日常生活へ波及する可能性が示唆された． 【今後の課題】 ・対象が少人数であり，結果の一般化には限界がある． ・主観的評価が中心であり，体力テスト等による量的データの検証が必要である． ・全学年への展開および継続的実践による効果検証が求められる．
山形	天童市立蔵増小学校	子どもが自ら英語を発信しようとする授業づくり	研究の成果 ・スモールトークによってどんなタイミングでリアクションするのか、「You can　see/enjoy/eat　〇〇.」を使う場面などを子供が理解でき、後々の修学旅行での外国人観光客へのインタビューに役立った。 ・ALT1人に留まらず、多くの外交人と交流する機会を設定したことが英語で自分から発信しようとする意識につながっていた。 今後の課題 ・言語活動の際にALTと話すための待ち時間が長くなってしまうため、待機中にできる活動やグループ活動の充実等で解決する必要がある。 ・機会を設けることで子供は自ずと英会話を楽しむようになっていった。教師が英語での言語活動を敬遠するのではなく、触れる機会を多く設定することが必要であると強く実感した。
山形	天童市立高擶小学校	ウェルビーイングの実現に向けた家庭学習のあり方の探究 ～「学びのモデル」理論にもとづいた実践の分析を通して～	【研究成果】 ・自律的な学習サイクルの機能: 「学びのモデル」の導入により、児童が自ら計画・実行・省察を行うサイクルが家庭学習でも機能した 。 ・質の高い学びへの変容: 当初はドリルの消化等の量的達成が中心だったが、次第に再テスト対策や予習など、目的を持った主体的・調整的な学習へと進展した 。 ・達成感の共有: 友人との交流や価値付けを通じ、PERMA理論における「達成感」や「没頭」を味わう児童が増加した 。 【今後の課題】 ・個に応じた動機付けの深化: 受動的な取り組みに留まる児童へのアプローチを工夫し、学級全体での資質・能力のさらなる育成を図る 。 ・校内普及に向けた汎用性の検討: 本実践の成果を他学年でも展開できるよう、発達段階に応じた支援のあり方や、家庭学習の意義をより実感できる仕掛けを検討・継続検証していく 。
神奈川	大和市立大和小学校	ともに学び合える教室 ～低学年の子どもと教師のあゆみ～	【研究の成果】 　教師側が当たり前としてやっていたことが、子どもにとっては当たり前ではない。 ある子にとっては当たり前なのだが、ある子にとっては当たり前ではない。環境と子どもの間にズレが生じるそんな時に、子どもは何らかの合図を送っていることがわかった。その合図は、普段の生活では、当たり前になってしまっていて見過ごされてしまうこともある。「わかりません。」と言える環境を作ってあげることが、その子にとっていかに大切なことかを改めて認識することができた。 【今後の課題】 　子どもたちが戸惑いそうな環境は、まだまだあることを前提に、子どもの実態に寄り添う教師の関わり方について、さらに追究していく。
新潟	長岡市立阪之上小学校	粘り強く追及し自立して学習する子の育成を目指して ～高学年算数科における課題設定と対話的な学びの工夫～	【主要な研究成果】 ・単元を貫く視点や考え方を想定して単元を構成し、学習課題を設定したことは、子どもたちが既習事項を基に自立して解決の見通しをもつ姿につながった。また、単元を貫く視点をもつことで、1時間の授業ではなく単元全体を通して子どもを見取ることができ、子どもたちの考えをより多角的・広範に捉えることが可能となった。 ・協働的な試行錯誤の場を多く設定するとともに、話し合う内容を単元を貫く視点に基づき焦点化した。これにより、子どもたちが粘り強く追究に取り組む姿が見られ、対話が質の高い学びへと結びついた。 ・単元のまとめや振り返りを通して、自分がどのような視点で解決したかを自覚させることで、学んだことを次の学習や類似課題へとつなげる「自己調整」の力が育まれた。 ・様々な学年、単元の「単元を貫く視点や考え方」で明らかにしていく必要がある。

令和7年度　教育研究助成応募【個人研究】

都道府県	学校名・個人	研究主題	主要な研究成果
新潟	新潟市立内野小学校	児童同士の補助が運動意欲や技能習得に及ぼす影響 ～5年生跳び箱運動における、「できる喜び」を育む授業の工夫～	【研究の成果】 ・児童同士の補助により，今まで跳び箱を跳び越すことができなかった児童も跳び越す成功体験を重ねることができ，運動意欲の向上や技能の習得につながった。 ・補助によって，動きの感覚をつかみやすくなり，かかえ込み跳びを中心に技能の伸びが顕著であった。 ・補助をし合うことによって，友達とのかかわりや教え合いが活発になり，協働的に学習を進めることができた。 ・補助の仕方を指導し，安全な場で補助の練習をする時間を設けることで，児童同士でも安全に効果的な補助を行うことができるようになった。 【今後の課題】 ・本単元で提示した補助の仕方がどの児童にも適切な補助になっていたとは言えなかったため，個に応じた工夫や他の補助の方法を探る必要がある。 ・補助を行う側の児童がどのような学びをしているのかを検証することで，どの立場からでもより主体的に学べるような授業の工夫を検討することができると考える。
新潟	南魚沼市立六日町中学校	中学校数学科における「学びの実感」を伴った授業づくりに関する研究 ～OPPシートを活用した学習履歴の蓄積を通して～	＜研究の成果＞ ①本質的な問いを単元の開始時と終了時に設定し、単元を通して学習履歴を継続的に蓄積させたことで、生徒が自らの記述内容の変容や思考の深まり、自己の成長を具体的に認識し、学びを実感する姿が見られた。 ②毎時間「一番大切だと思ったこと」を文や図、表などで表現させ、OPPシートを活用した自己評価を行ったことで、学習内容の整理と焦点化が促進されるとともに、自らの課題を明確にし、次の学習へ主体的に生かそうとする姿が見られた。 ＜今後の課題＞ ①他の分野・領域においてもOPPシートを活用した実践を計画的・継続的に積み重ね、その効果の汎用性および持続性について多面的に検証していく必要がある。
新潟	阿賀町立三川中学校	資質・能力を育む深い学びにいたる授業の創造 ～社会的な見方・考え方を働かせる工夫を通して～	主要な研究成果 ・生徒の実生活に関連のある物事を題材とすることで、自分ごととして学習内容を捉えることができ、生徒がより主体的に学習に取り組み深い学びに至った。 ・生徒の立場を明確にして多角的に考えることと、思考を可視化するためのレーダーチャートを生徒自身が事前に用意することによって、意見の発表にとどまらず議論に発展し、言語活動が充実した。 ・深める問いを設定したことで生徒の考えを揺さぶり、さらに考えさせることで学習内容を深めることができた。しかし、問いの内容によっては、単元内で獲得した知識の活用が少なく、汎用的な考えに至ることができなかったので、問いの立て方は今後の課題であり追究していきたい。 ・この研究を通して、「自分ごととして捉える工夫」「言語活動の充実」「深める問い」の3つの手立てを活用することで、深い学びに至ることができた。
長野	長野市立三輪小学校	「地域学校協働活動」の推進に必要な教頭としての役割 ～地域協働型の授業カリキュラムと校内研修プログラムの開発～	本実践研究では、学校と地域が子どもを共に育てる「地域学校協働活動」を推進するうえで、教頭が果たすべきパイプ役の役割を探った。第一に、教頭自身が地域に足を運び、出会いを通して教育資源を把握し、職員に提供する学習情報として整理することの重要性を示した。第二に、学年会を校内に限定せず、地域を会場にしたり地域住民が参画したりする場を設け、子どもの育ちや地域を題材とした学習の熟議を行うことが有効であった。第三に、地域の職人や教師と協働して教育資源を生かした授業づくりを行い、地域協働型カリキュラムとして構想することが、子どもと教師双方の学びの楽しさにつながることが示唆された。
長野	長野県岡谷工業高等学校	ロボコン競技で培った技術力で社会貢献 ～校外連携による社会貢献活動によって技術力は価値を持つ～	工業高校電気部におけるロボット競技への参加および地域連携活動を通したSTEAM教育の実践を行った。 その成果として、生徒に対し、設計・加工・回路・制御といった専門技術を横断的に活用し、試行錯誤を重ねながらチームとして課題解決に取り組む力を育成することができた。 また、工作教室や依頼製作などの対外的な活動を通じて、相手の立場や年齢に応じた説明力や、要求を的確に汲み取る力を育成することができた。特に、相手に思いを馳せながら行うものづくりの経験は、生徒に技術と社会との関わりを意識させ、責任あるものづくりへの理解を深めさせる契機となった。 以上の成果は、学校内の学習のみでは得難い実践的な学びを生徒にもたらしたものであり、工業高校におけるSTEAM教育の有効性を示唆するものといえる。

都道府県	学校名・個人	研究主題	主要な研究成果
愛知	瀬戸市立原山小学校	有意義語を持たないASD児の「ことば」を育てる ～音楽療法をベースにし感覚統合の考え方を取り入れた通級による指導～	1.研究の成果 通級による指導では、対象児童生徒を複数年担当できることが多く、対象者に対し、「自立」にむけての支援を長期間積み上げていくことができる。 A児においては、通級による4年間の指導の積み重ねを通し、コミュニケーションの能力が高まるなど、大きな変化が見られた。担当した教職員に対する聞き取りからも、できることが年々増えたことが確認できた。指導を始める前と比べ、A児のQOL(生活の質)が飛躍的に高まった。 2.今後の課題 A児に対して行った指導は、指導者側の指導の幅を広げてくれた。現在担当している児童、これから担当する児童生徒に対しても、指導する側がさらなる研鑽を積み、広い視野と確かな知識を持って工夫した指導をする必要があると考えている。
愛知	大府市立大府中学校	文学的文章における「自立した読書」育成のための授業づくり ～文学的知識の習得・活用を意識して～	本研究では、自らの力で作品を味わうことのできる「自立した読者」の育成を目標とした。そのために、文学的知識を習得することで、「なんとなく」の読み取りから脱却することを目指した授業を実践した。研究を通して得られた成果と課題は以下の通りである。 成果 ・授業の導入に文学的知識を習得する時間を設定することで、学習課題と読み取りの視点が明確になり、生徒の学習意欲にプラスの変化が見られた。 ・同様の形式での授業を1年間継続することで、秋ごろには自分で観点を設定し、作品に対する考えを書くことができる生徒の割合が増加した。 課題 ・学年の授業を複数の教員で担当するために、指導する文学的知識をリストにまとめ、共有できるようにしていく。 ・3年間継続して指導した時の変容を検証する。 ・学習した内容が日常生活で生かされているのかを検証するために、授業以外での読書にも視野を広げて検証していきたい。
兵庫	兵庫県立飾磨工業高等学校	体験活動が育む生徒の主体性 ～定時制課程多部制工業科での取り組み～	体験活動を推進することで生徒の主体性を育むことができた。 座学が苦手な定時制課程の生徒だからこそ、探究活動を含む体験活動に学習の一端を担わせることが重要である。体験活動が生徒の興味・関心を伸ばし、「主体性」を育み、学習内容の習得を促進することになる。このことは定時制課程の役割の一つである「学び直し」を行うにあたっても同様に効果的である。 　この活動に取り組んできた生徒は、活動前と比較して、自己肯定感が高まり、自信をもって活動をすることができるようになっている。 　本校生徒の進路先の大多数は「ものづくり」関連である。今後は、工業科との連携を強め、より「ものづくり」を意識した活動を増やしていきたい。
山口	山陽小野田市立高千帆小学校	教師と生成AIの協働による授業改革 ～生成されたキャラクターと紡ぐ「創造する学び」～	【研究の成果】 ●1学期の実践により、2学期以降の社会科の授業でも同様の形式で簡単に展開することが可能になった。 ●Geminiの全年齢展開に伴い、Gemを活用した児童への直接フィードバックを試行した。初回は時間を要したが、次回以降の時間短縮が期待できる。 ●生成AIキャラクターを、教科の枠を超えて学級の共通キャラクターとして多面的に活用できた。 【今後の課題】 ●自治体や学校としての安全かつ効果的な生成AIの利用方針について、さらなる検討が必要である。 ●児童の思考の深まりや変容をAIが的確に捉えられるかを見極め、評価基準を精査する必要がある。 ●的確な視点で児童にフィードバックを返すため、Gem（プロンプト）の最適な設定を検討する必要がある。
宮崎	延岡市立南小学校	小学校体育専科として取り組む児童全員が楽しめる体育科指導の普及 ～「体育デジタルワークシート」の作成・活用と「T・Tの形態の工夫」を通して～	【主要な研究成果及び課題】 体育デジタルワークシートの活用により、使用した職員全員から「安心して指導できた」など肯定的な評価が得られ、体育科指導への不安解消に有効であることが示された。また、T・Tの形態の工夫では、指導に当たった職員から自信向上の声があり、児童アンケートでも全員が「運動が楽しい」と回答を得られたことから、全員が楽しめる授業づくりに有効であることが明らかとなった。一方で、ワークシート内容の精選や児童の実態に応じた柔軟な指導、さらに対象職員増加時における効率的なフィードバック体制の構築が今後の課題である。

令和7年度　教育研究助成応募【個人研究】

都道府県	学校名・個人	研究主題	主要な研究成果
沖縄	宮古島市立北小学校	筋道を立てて考える力を育む授業づくり ～「思考のずれ」を生む発問と「根拠・理由・主張」を可視化した共有活動を通して～	成果 ・「思考のずれ」を意図的に生み出す発問を授業展開に位置づけた結果、児童に認知的な違和感や葛藤が生じ、課題解決のために「根拠（叙述）・理由・主張」を用いて論理的に説明する力が向上した。 ・「根拠（叙述）・理由・主張」を可視化した共有活動に取り組んだ結果、児童は他者の思考構成要素（根拠・理由・主張）を比較・分類・検証しながら、筋道を立てて課題を解決する力が高まった。 課題 ・児童の思考の流れに沿った教材分析に基づき、「多様な意見を引き出す発問」や「課題解決に向けた議論を促す発問」を設定することで、児童の思考の焦点化を図る必要がある。 ・第1段階で「根拠（叙述）・理由・主張」の意味を児童に確実に理解させるとともに、自分の主張を「根拠（叙述）と理由」を加えて説明することの必要性を児童自身が強く認識し主体的に取り組めるよう、さらなる実践研究を継続 する必要がある。

都道府県	学校名・団体	研究主題	主要な研究成果
神奈川	神奈川県公立中学校教育研究会	生きる力を育む教育課程の研究	年間8回開催された専門委員会では、各地区研究会や各研究部会からの活動報告を通じ、特色ある活動や課題について情報交換を重ね、理解を深めた。また、1月28日に行われた「第34回研究報告会」において、専門委員会の「教育課程委員会」「調査委員会」、地区研究会の「大和地区研究会」、研究部会の「美術部会」「生徒指導部会」から児童生徒の発達を支える教育課程の編成、校内研究・研修を生かした人材育成の取組、不登校支援・学習支援・家庭支援・心の支援などの子どもたちへの支援体制、子どもにつけたい力を考える美術科の授業づくり、多様化する生徒指導について、研究の成果が報告され、全県に向けて発信し、会報としてもまとめた。
新潟	上越情報教育研究会	生成AIを活用した教育実践と校務効率化の試み ～小学校現場における事例的検討～	＜主要な研究成果＞ 本研究は，小学校における生成AI活用を「授業（道徳）」と「校務（学年便り）」の両面から事例的に検討した。道徳では，生成AIを登場人物ロレンゾとして「答えずに問い返す存在」に設定し，役割演技後に対話を行うことで，児童の価値的葛藤が具体化し，判断の根拠を掘り下げる内省の深化が見られた。校務では，学年便りの目的が多様であることがAI活用の評価に直結し，語彙拡張や文章のたたき台作成による効率化・質向上が示唆された一方，出力の具体性不足や「教師らしさ・児童の個性」の希薄化への懸念が課題となった。今後は，第三者視点の導入や対話設計の改善，教師による補完を前提とした運用指針の整備が必要である。
新潟	村上の算数・数学を語る会	「深さ志向」と「多層的な教室」の実現を見据えた算数科の授業改革	・単元構想図による「深さ志向」の実現 　児童が構想図を用いて学習到達度を自己評価することで、計算技能だけでなく「意味理解」の不足を客観的に認識できた。その結果、自ら課題を選択し学び直す「自己調整学習」が促進され、教科の本質に迫る深い学びが実現した。 ・フリー対話による「多層的な教室」の構築 　児童の必要感に基づく流動的な対話を取り入れた結果、教師主導の練り上げを脱却できた。他者の考えに触れて自らの思考を修正・納得するプロセスが生まれ、個々の進度や興味に応じた協働的で多層的な学びの場が形成された。
新潟	上越市中学校教育研究会国語部	課題を工夫し、伝え合う場を充実させて自身の考えを練り上げ再構築する授業づくり ～課題を自分ごとと捉え考えを深める生徒の育成～	【研究の成果】 ・課題の工夫では、「おくのほそ道」の同行者の視点で作品を考えさせたことが課題を自分事と捉えることができ、積極的な伝え合いに結び付いた。 ・伝え合う場の工夫では、話し合いを繰り返すことで話し合いのスキルを定着させることができ、ワークシートを「自分・他者・テクスト・時代」と対話できるようにしたことで考えが深まった。 【今後の課題】 ・話し合い前にどの程度事前知識を学ばせるか工夫が必要。 ・生徒が話し合いをコーディネートする能力の向上。
新潟	新潟市同和教育研究協議会	不登校の解消に向けた学級担任の献身的な実践と当校の取組 ～3人の不登校生徒との関わりを通じて～	【成果】 ✧学級担任の献身的な実践は、電話連絡や家庭訪問、タブレット端末の活用を通じ、生徒一人一人を温かく粘り強く見守り、関わりを継続してきたことが結果的に生徒や保護者・家族に安心感を与えることにつながった。 ✧学級担任や学年部の対応や状況に目を配り、労うと同時に次の対策を短期的・長期的に思案するなど、全校体制で組織的に策を講じ、支援してきたことが学級担任・当該学年職員が安心して生徒や保護者へ対応することにつながった。 ✧結果的にこのことが生徒・保護者との良好な関係を構築する上での基盤となった。 【課題】 ✧どんな手立てを講じてもなかなか解消に至らず、担任も保護者も焦りや不安を長期に渡って抱いてしまった。 ✧関係機関との連携を駆使しながら、その間の保護者への適切な支援・啓発がさらに必要だった。
愛知	西春日井地区小中学校教務主任会	少経験教員のさらなる力量向上を目指して ～協働的な教員の学びを通して～	1　研究の成果 ○　個々の実態に即した研修を進めることで、少経験教員とミドルリーダー双方が、自信をもって教育活動に取り組めるようになった。 ○　研修をきっかけに校内で協働する機会が増え、同僚性が高まった。 ○　少経験教員とミドルリーダーそれぞれのステージに合わせた育成指標が意識されるようになった。また、各校の報告から、それぞれの指標を意識した取組になったことが分かった。 2　今後の課題 ○　研修を行うミドルリーダー自身が学ばなければならないことが多く、自信をもって知識や経験を伝えることが容易ではなかった。 ○　どのように研修をコーディネートするかを検討することや、研修の進捗状況をチェックし、助言することが教務主任の頑張りどころと捉え、教務主任自身の力量向上につながると考える必要がある。

令和7年度　教育研究助成応募【団体研究】

都道府県	学校名・団体	研究主題	主要な研究成果
山口	山口市立宮野小学校	自己肯定感を高め、自ら学び続ける児童の育成 ～主体性を保障し、学びを調整する学習活動を通して～	＜成果＞ ・児童の主体性や児童同士の関わり合いを尊重した学習活動を仕組むことで、自分や友達のよさについて改めて感じ、友達と協働的に学習に取り組むとともに、自ら学び続けようとする姿勢を見ることができた。 ・自分や友達の価値に気付き、肯定的な集団をつくることで、学校を「楽しい」と感じている児童が大幅に増え、児童同士の積極的な関わり合いを生むことができた。 ・児童が主体的に課題解決を図ることができるような活動を豊富に設定することで、様々な解決方法の中から自分たちに合う方法を選択し試しながら改善するなど、工夫して学ぶ姿をどの教科でも見ることができた。 ＜課題＞ ・進んで学びを調整していく児童とそうでない児童の差を感じたことがあった。児童自身で学びを振り返り、改善していくという形が理想であったが、改善までは至らないこともあった。
鹿児島	鹿児島社会科実践研究会	若年教職員の教科指導力向上に向けた自主研修組織のあり方 ～鹿児島社会科実践研究会（前のめり会）の取り組みを通して～	（成果）県内の若手社会科教員の中でも、研修意欲が高いが、研修機会の少なさに対して課題を感じている教員の受け皿となり、社会科学習指導に関する研修機会の提供を行うことができた。また、県内外の大学関係者等とのつながりを作ることで、今後の対面研修における内容の充実を図る見通しを立てることができた。 （課題）日常的な研修機会のあり方について模索する必要がある。特に、繁忙期となるとSNS等を活用してもコミュニケーション頻度の低下が見られる。負担と研修とのバランスを考慮し、特に若手教員の感覚に寄り添った研究会の在り方についても模索する必要がある。